

舞鶴市市史編さん委員会現代部会（第2回） 議事要録

○日 時：令和7年3月25日（火）10時～12時

○場 所：Web会議

○出席者：上杉部会長、児玉委員、杉岡委員、黒沢委員、小山委員
オブザーバー（佐藤委員、熊本委員、太田委員）

○舞鶴市：生涯学習部文化振興課（田中係長、吉岡、廣瀬、石原）

《次第》

- 1 開会
- 2 部会委員等紹介
- 3 協議事項
 - (1)通史編「平成の舞鶴」の構成について
 - (2)執筆者等について
 - (3)今後のスケジュールについて
 - (4)その他
- 4 連絡事項
- 5 閉会

《概要》

【協議事項】

(1)通史編「平成の舞鶴」の構成について

〔事務局より、資料2・通史編「平成の舞鶴」構成素案について説明。〕

- ・中等教育はこの義務教育の後に、高等教育機関の前に本当は入ることが普通だと思うが、高校のことについても、しっかりとページをさかれるのか確認しておきたい。
 - 事務局／市内には3つの高校があり、この部分は押さえていきたい。高等教育機関等と書くべきであった。
- ・中学校、高校というのはあくまでも中等教育という形で分けるのが多分通例だと思う。中等教育という1つのカテゴライズを、小分類で作るのが望ましい。
- ・キーワードにユネスコの世界記憶遺産登録が、平成の中で大きな出来事だったと思うが、入っていない。追加されるのかどうか確認したい。
 - 事務局／5番目で「引揚含む」としているが、もう少し具体的に表記する。
- ・引き揚げについては、文化スポーツの歴史文化財のところに含まれるということで、ページ数のこともあり、詳しくは書かないで別途引揚港編で詳しく論じればよいということになるのか。
 - 事務局／通史編については、どこまで詳しく押さえられるかというのは別として、概要版ではないので、これまでの各時代と同様、中身については省略していく予定はない。分量が多くなる可能性もあり、その際には分冊という形で考えて

いきたい。

- ・舞鶴の特徴として、映画の撮影の誘致が多く、映画のまち舞鶴というのは1つキーワードになると思う。西舞鶴の駅を出たら、「かまぼこの街舞鶴」という看板が大きく掲げてあるが、産業としてのかまぼこであったり、食文化としてのかまぼこなど地域ならではの食文化というのもあると思う。また、名誉市民を見ていると政治家が多いが、舞鶴ご出身の方で各方面で活躍されている方も多いと思う。ギャル曽根さんなどからコメントをもらうなども考えてはどうか。

京丹後の副読本の最新版はGIGAスクール対応になっており、QRでも読んでもらえるほか、ちりめんの事を過去にさかのぼって書くなど、学校現場で使ってもらうため学校の先生方と文化財の関係者が一緒になって作っており、参考までにご覧いただければと思う。

- ・資料2については、比較的網羅的に内容が踏まえられていて、これがベースという点では同意させていただく。ただやはり市役所史といった印象が今の時点では強い。民間の色をもう少し濃くできるとよいと思う。文化スポーツと市民生活というところに市民のことが出てくると思うが、フィルムコミッションのような民間団体や「艦これ」での盛り上がり、経済団体の活動なども入れるとよいと思う。また、市民に向けて単発でこの1冊を読んでもらうときのことを考えると、冒頭に概要的な記述があってもよいと思う。例えば大震災や新型コロナみたいな各項目を貫くような出来事、自治体に影響を与えた法改正などを冒頭で書くなど、舞鶴市が平成時代にどんな動きをしたのか大まかにつかめるような記述があってもよいと思った。

もう一つ、市議会や首長の話があってもよいと思う。首長からオーラルで直接話を聞いたりする機会は意外とないと思うので、使うか使わないかは別にしても、この機会に情報収集すればと思った。

●事務局／今、若い人たちが中心となってプレイバックフェスティバルをやり始めた。赤れんがジャズフェスティバルやちゃった祭りもあり、民間からの動きという形で検討していく必要がある。

- ・確かに平成の舞鶴というと、特に赤れんがのところからいろんな市民の活動というのが広がったりしていて、市民の活動を一つ柱として立てた方がよいと感じた。
- ・プレイバックフェスに関しては、国内を代表するフェスになったということなんですが、令和から始まっておりどこまで区分けするのか、令和の舞鶴を書くときに収録されるのものと思ったりもした。

赤れんがの話が、この総計の分け方では入る部分がなく、特出しというキーワードがよいと思う。引き揚げの歴史と赤れんがの歴史というのは非常に深いものがある。何より使わなくなった赤れんがを市民の手で市職員の方が中心となり文化資源にと取り組んできた。赤煉瓦倶楽部舞鶴をつくられた馬場さんは、元市職員でもあり、牽引をしてきた方でもあるので執筆者としても想定できる。赤れんが

の歴史というものを特出しをして収録した方がいいと思う。一方でこれは他の近代史や文化遺産のところでももちろん触れられると思うので、総合調整が要と思うが、文化的な価値というよりはむしろ市職員の皆さんたちが勉強会を重ねて、そして横浜の職員さんとも勉強していきながら、少しずつ今の地位を文化財まで高めて、市民の憩いの場、観光の拠点になったという切り口で、現代史としては収録することが望ましいと思う。

- 1つのスタイルとして特出しというのが出てきている。東と西の調和ということも舞鶴は大事だと思うので、バランスは取らないといけないかもしれない。概要みたいなのを作っていくことと、特出しする方がいいだろうというようなものがいくつかおそらく出てくると思う。
- 綾部市史では例えば「平和・祈り」とか「心のつながり」とかわかりやすい形で括っている。もう少し違うキーワードで括てもらおうと、市民の活動や引き揚げについてもそうだが、赤れんがやイベントもある程度まとめたものとして出てくるという感じがする。章立てを見ていると面白くなさそうだなという感じである。もう少し読んでいただくということを念頭に置けば、少し違うキーワード、形での括りが考えられないかと思う。
- 中身は知的な楽しみという意味の面白さというのは必要だと思うが、その前にやはり市民の方に手に取っていただかないといけない。少し章の並び方だったり、章の名前は、これはたたき台なのでこれから検討していくというようなご指摘をいただいたと思う。
- 私も市史を作ったときに、京丹後は丁寧なものづくりをしていたまちというのを描きたかったということがあり、サブタイトルは「ものづくりのふるさと」とした。平成のこの舞鶴を見通したときに何か通せるようなテーマがあるのか。もし今までの話の中で出ていたら教えてほしい。
- 前回のところでは、そうした通しのテーマというのはなかったと思う。文化財保存活用地域計画、その前の歴文構想では、舞鶴らしさというのを少し表現しているので、参考になる部分があると思う。
- 大事なことは1つは網羅的であること、全体性が担保されているということだが、もう1つ大事なのはこの問題と相反するようだが、平板にならないことだと思う。この市史を通じてどういう地域像を出したいかということが問われていると思う。その相反する網羅性と平板にならないように、その地域像や歴史観をどう表現するのかというところの議論をやはり深めて時間かけていくことが非常に大事ななというふうに感じた。
- どういう舞鶴像、平成、令和に続く舞鶴というのをどんなふうに評価して、どんなふうな歴史を描くかというのは本当に大事なことと思う。世界記憶遺産や赤れんがなど、いくつか出てきたという気がしている。
- 平成編を今回作るとして昭和の舞鶴はどういうふうなコンセプトで描かれたか、昭和から平成にどういうふうに変わっていったかというところが歴史の流れとし

てはあると思う。引き揚げに関係してるので、昭和から平成に繋がってくるのは、平和とか祈りというのが1つ舞鶴像に入ってくると思う。昭和がどうだったかというところから考えてみるのが、平成の舞鶴像を出していく上で重要な点になると思う。

- 確かに平成を評価しようと思うと、その前から評価をしていかないと平成がうまく位置づけられないと思う。軍港呉も舞鶴も横須賀、佐世保も一緒だが、海軍の施設全てを使っている。今でも自衛隊が、呉とか佐世保は米軍基地も入っている中でうまくやっている。そして今、日本遺産となっているところというのも1つの個性だと思う。また、港を使っただけの引揚港であり、いくつかの流れがあっていると思う。いくつかの歴史像の中で舞鶴を評価していくみたいなところを、綾部市の序章的なところで表現をすれば、見取り図的なところになっていくように思う。
- 平成の大合併の時にこれに乗らなかったというのは非常にいい決断をされたと思っている。もちろん昭和の合併のときに加佐が編入されているが、この昭和から平成にかけてまちの一体感みたいなものが失われず、町の歴史を語るときにも特徴が出せると思っている。その上で、章立てあるいは平成の舞鶴とは何だったかというときに冒頭で書かなきゃいけない1つとしては、やはり海軍の歴史から、今でも海上自衛隊の歴史になっているし、そして海上保安学校は全国からきた子どもたちが学ぶ場になっている。平和に関しても、人口的な問題も、まちのアイデンティティにしても一つの特徴であろうと思う。一方でそれは全体で見たら東舞鶴の歴史でしかないのだから、西舞鶴はやはり田辺城をはじめとする城下町と商店街の歴史であり、加佐と大浦地域もどちらかといえば福知山だったり福井県によった海のまちと山のまちになるので、その辺りのバランスが取れるような書きぶりをしないと、東舞鶴のことだけとか西舞鶴だけになってしまうと、舞鶴全体の一体感を失ってしまうと思うので、海上自衛隊の歴史を踏まえながらも全体の一体感をぜひ表現できればと思った。
- 港町で諸外国との繋がりは、特にロシアとか朝鮮、韓国、中国など日本海側の沿岸地域の繋がりとというのが産業面、観光面でもあると思う。それから東京オリンピックのときにはウズベキスタンのホストタウンになったりして、国際交流や産業交流というようなところが面白いと思う。今回の章立てでいうと、章としてはストレートに出てこないが、章のタイトルとしても何か出せないかと思う。
- 2010年に舞鶴に着任したが、日本地図が南北が逆になっていて、海に航路が出ている地図を見た覚えがある。貿易港としても、西舞鶴にふ頭を造ったり、コロナ前までは本当に豪華客船がたくさん来ていた覚えがある。海というのは一つのキーワードとして成り立ちうると思う。
- 海からの入口というか海への出口みたいな、そんな舞鶴のイメージがある。特に西舞鶴はいつも大きなトラックが材木を積んで走ってるイメージがあり、次第に中古車に変わった。また、北海道へのフェリーは、関西の人も舞鶴から小樽へ

行った人が多いと感じている。特に西港は京都府の大きな事業がなされており、これが平成の話になると思う。

- ・今、海というようなキーワードは東も西もというような形でできるテーマで、大中小の大みtainなところだと思う。海の交通があるのなら、陸の交通もあるということで、縦貫道が平成を通じて全体として繋がったと思うので、この視点もいけると思う。

また、序章に見取り図的な何か大きな流れを書いた方がいいだろう、章立ては名前を少し変えていく。一方で項目としては過不足ないのではないかとご確認いただいたと思う。それに加えて市民の活動みたいなのところの視点というのがもう少しいるというようなところ、あとはメリハリとしての特出しするようなものもあるのではないかと。そういった点が今のたたき台を修正する方向としていただいたと思うので、次回以降で深めていければと思う。事務局の方ではどうか。

- 事務局／大変参考になるご意見をたくさんいただいたので、それを踏まえて、また案を作り、部会長と相談の上で各委員さんにメールでやり取りさせていただきたい。

(2) 執筆者等について

〔事務局より、資料1 部会名簿の変更点について説明。〕

- ・執筆者については、市役所の方は現役の方も入るのか。
 - 事務局／項目が揃う中で、全体的に網羅していく必要があり、まずOBに当たっていきたく思っているが、現役もありうると思う。
- ・事務局から市役所関係者を中心に執筆を依頼したいということでしたが、網羅的な部分というところでは必要であり、皆さんそれでよいのか。このほか、今回出てきた市民側の歴史のところ、市民の方で素晴らしい方もたくさんおられると思う。今チャットの方に杉岡先生から例えば日星高校の前校長水島先生と入れていただいた。事務局でも把握されていると思うが、市民の方々にも書いていただくことになろうかと思う。特筆していく場合、少しボリュームが多くなる時は書き慣れていない方もおられるので、委員の先生方のご協力もぜひ仰ぎつつということになろうかと思う。また、現代部会に知見を得たいというところで、こういう専門の方が入った方がよいということがあれば、追加していくことは可能だと思うのでぜひお願いしたい。

資料2の項目ごとに執筆者をお願いしていく場合は多くの方をお願いすることになるが、中項目ぐらいで書いていただくことになるのか。

- 事務局／幅広く活動されていた方であれば一定の範囲を書いていただけると思うが、それは人によって変わってくると思う。あわせて市民活動の切り口という話もあったので、行政経験者の他に、例えば市民団体やNPOの代表的な方も念頭に置きながらあたっていく。
- ・多くの方に関わっていただくことはとても大事なことはあるが、1ページ2ペー

ジごとに人が変わっていくと調整が大変かと思うので、市役所OBの方の中でも大局的にされていたというような方に、多くの項目を書いていただくことも必要かと思う。

(3)今後のスケジュールについて

〔事務局より、資料3・市史刊行に向けたロードマップ（案）について説明。〕

- ・引揚港篇は見直し案の方ではR9年度となっているが、それでよいか。
- ・引揚グループは東京から行くことになるので、そこが調査執筆していく上でネックだと思っているが、現段階ではそこを目指して頑張りたいと思っている。
- ・よろしくお願いいたします。市史編さんでアルバイトも雇っていると思うので、うまく活用してほしい。この通史編としては、R10年度に刊行するとなると、普通の本よりも少し時間がかかるので、多分5、6月ぐらいには入稿していくというようなスケジュールだと思う。事務局が年に何冊か本を出ような計画になっていることもあって、事務局がパンクしてしまうので、油断せずデッドラインというのをお互い気をつけていきたいと思う。

また、来年度部会としては2回ぐらいの開催で、他に適宜メールなどでやり取りをしていくということだったのでよろしくお願いいたします。

今日はすごく充実した意見交換ができたと思う。通史の何かイメージみたいなものはかなり共有できたと思う。皆さんからいただいた意見を踏まえ、事務局の方で改めて案を作って、先生方にもメールで見えていただき、一定了解を得たら、執筆者の選定に入っていく。おそらく事務局の頭の中には、この人を書いてもらおうとかあると思うので、項目はたくさんあるが、そこまで執筆者に困るというのは少ないというふうに勝手に思っている。ただ今日出てきた市民の目線だとかこれから事務局の方でも考えていくことだと思うので、先生方の中でもぜひ事務局からの質問だったり相談があれば知恵をお借りできればと思う。

(4)その他 特になし。

4 連絡事項その他

〔事務局より、部会運営要領等について説明。〕

以上